

**長い歴史のなかで**

3月20日、上ノ国・河北・滝沢小学校では100回目、早川小学校では102回目となる卒業式が執り行われました。本町では、上ノ国小学校の前身である勝山小学校が明治11年に、滝沢小学校の前身である安在小学校、汐吹小学校が明治15



河北小学校



上ノ国小学校



滝沢小学校



早川小学校

年に、早川小学校が明治16年に、河北小学校の前身である中須田小学校が明治18年に創立し、学校教育が始まりました。今年、各学舎から52名が卒業し、春からは中学生として学んでゆきます。かつてこの学舎から巣立った先輩と同様に、大いに成長していくことが期待されます。

**よりよい教育活動に向けて**

この度、上ノ国高校が道南で初めてユネスコスクールに認定され、3月12日に認定証の授与式が執り行われました。ユネスコスクールは、地域に根差した貢献活動を行い、かつ国際的な視野を持った子どもを育成するため、全世界で約9千の学校が加盟し活動しています。

上ノ国高校ではこれまで、地域について学ぶふるさと高校生議会や自分達が作成した絵本で保育園児への読み聞かせを行うなど、地域貢献と学びを両立させた様々な取り組みに力を入れました。この度の認定を受け、上ノ国高校の松原校長は、さらに充実した教育活動を行っていききたいとのことでした。



**チャリティーで**

**地域貢献**

3月16日、総合福祉センターにて「第15回南部美声会歌謡・民謡・舞踊チャリティーショー」が開催され、約200人の来場者が歌や踊りを楽しみました。

今年で15回を数えるこのチャリティーショーでは、地域の社会福祉充実などのため、来場者の方々から寄付を募っており、この日も多くの方々の協力によって集まった寄付金の一部が上ノ国町社会福祉協議会へと手渡されました。

上ノ国町社会福祉協議会では今後、町内の社会福祉の推進によって地域に還元していきたいとのことでした。

